

簡単！便利！ スマホ活用ライフ



スマートフォン(スマホ)やインターネットが普及したことで、社会のデジタル化が進行し、デジタル機器は日常の生活に欠かせないものとなっています。特にスマホは、持ち歩くことができ、いつでも・どこでも最新の情報を簡単に手に入れることができます。スマホを使って便利な日常を過ごしませんか。

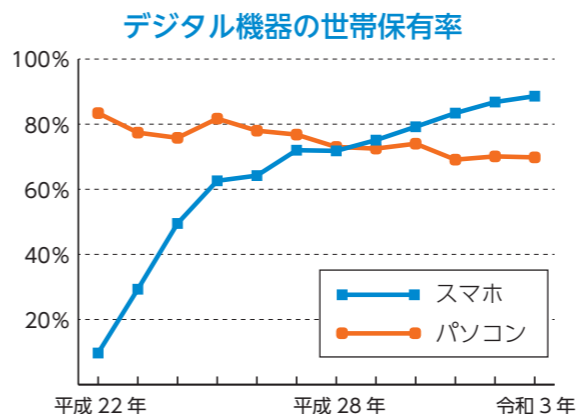
図 情報・統計課 (TEL049・262・9027)

スマホの普及

スマートフォン(スマホ)とは、従来の携帯電話のように電話やメールができることに加え、地図、財布、ゲームなどさまざまな機能が使えるデジタル機器です。

国内のスマホの世帯保有率は平成22年では約10%でした。その後、急速に広まり、平成28年にはパソコンの普及率を上回り、令和3年には約90%になっています。

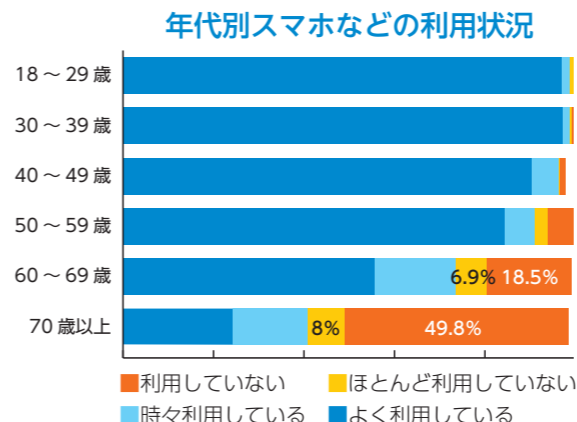
市ホームページも約70%の人がスマホから閲覧しています。



デジタルデバイド

一方でデジタル機器を使える人と使えない人で、得られる情報に差が出てしまう「デジタルデバイド」が問題になっています。「必要ない」「使い方が分からない」などの理由で、スマホを利用していない人もいます。特に60〜69歳では約25%、70歳以上の約60%が利用していないため、デジタルデバイドにつながっています。

スマホを使って、早く正確に情報を得ることができれば、災害で避難するときなどの冷静な行動にもつながります。



出典：総務省「令和4年度情報通信白書」、内閣府「情報通信機器の利活用に関する世論調査」

ふじみ野市の

デジタル意識

市の電子申請の利用状況は、イベントや検診の申込みを中心に年間約6000件です(令和3年度実績)。

利用件数が増える一方、令和4年7月に実施した市民意識調査では「電子申請やオンラインサービスの利用方法が分かりにくい」と答えた人の割合が60代で54%、70代で64%もいました。市は、誰でも分かりやすい電子申請などのオンラインサービスの拡充に努めるとともに、日常的にスマホを使っていない人へのフォローをしていく必要があります。

ふじみ野市のDX

市では令和4年2月に「ふじみ野市デジタルトランスフォーメーション(DX)推進方針」を策定しました。

デジタルトランスフォーメーション(DX)とは、デジタル技術が社会に浸透させて生活をより良いものへと変革することを言います。「離れていてもつながるデ

ジタルの活用で便利なまちふじみ野」を実現する施策を紹介します。

●行政手続きのオンライン化

市役所に行かなくても手続きができるように「行政手続きのオンライン化」を推進しています。令和5年4月からは子育て・介護関係の26の手続きがオンラインで申請できるようになりました。また、令和5年度には、電子申請システムの更新を予定しており、さらに使いやすいシステムになる予定です。

●ごみ分別アプリ

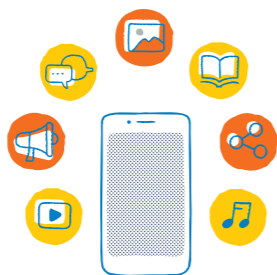
ごみの出し方や分別方法はもちろん、収集日をお知らせしてくれる機能もあります。ごみカレンダーをすぐに確認することもできます。



アプリとは

スマホは従来の携帯電話のように電話やメールだけではなく「アプリ」を追加(インストール)することでさまざまな機能が使えます。

現在、世界には約200万のアプリがあります。無料で使えるアプリも多く、自分の用途に適したアプリを追加することで、より便利にスマホを活用できます。



スマホ

従来の携帯電話の機能

電話、メールなど

アプリ

お財布、地図、ゲーム、音楽、ラジオを聞く、ニュースを読むなど

生体認証を使おう！

スマホのセキュリティ対策

スマホを使うと便利な反面、情報漏えいやトラブルなどの不安を抱えている人も多いのではないのでしょうか。画面ロックの解除やアプリの設定など暗証番号を入力する場面が多く、管理できずに誕生日や初期設定のままにしてはいませんか。

スマホの多くには「指紋」や「顔」を利用した「生体認証機能」がっています。生体認証を活用して、他人に情報が見られないようにする対策をしましょう。

「分からない」「難しい」を解決!

スマホの使い方講座

3月4日(土)にソフトバンク(株)と文京学院大学地域連携センター(BI-CSS)と協力して開催した「スマホ講座」の講師と参加者にお話を伺いました。



はった ゆうだい 治田 侑大さん
ソフトバンク(株)

スマホは、生活をもっと便利に豊かにしてくれるものです

昨年6～11月に、ふじみ野市と協力してウォーキングの継続などをスマホから応援をするアプリ「うごくま」の実証実験を行いました。実験の結果、アプリを利用することでウォーキングやフレイルに対する意識が向上し、スマホの利用頻度が大幅に増加しました。フレイル対策を広げるため「多世代とのコミュニケーション形成を通じた社会的フレイル対策」を取り入れたスマホ教室を開催しました。

内容は、私たち講師がお伝えする内容を学生がサポートし、和気あいあいとスマホを学びました。スマホの使い方を覚えてもらうのではなく、スマホは怖くないもの、便利で楽しいものであると意識が変わるように心がけました。そのため、基本操作方法だけではなく、マップのアプリを用いて疑似的な世界旅行(アメリカの自由の女神を観に行くなど)をしながら、遊んでもらいました。

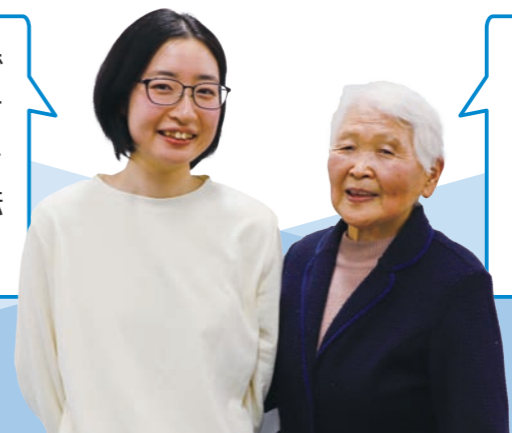
スマホを使う

市内のソフトバンクショップには、スマホの操作や困りごとを解決する専門員である「スマホアドバイザー」が在籍しています。初めてスマホに触る人向けの教室やお使いの機種に合わせた使い方、日常生活に必要なLINE、ネットショッピングまで、アプリの使い方をご案内します。全て無料で、携帯事業者を利用している人でも受講できます。

スマホの使い方を学ぶ

※フレイルとは、病気ではないけれど、年齢とともに、筋力や心身の活力が低下し、介護が必要になりやすい、健康と要介護の間の虚弱な状態。

スマホを使い始めて1年の90歳代ですが、若い人に一から分かりやすく教えてもらいました。これからもできるだけスマホを使っていきたいと思います。



さとう てるえ 佐藤 照恵さん

高齢者と関わるきっかけづくりで参加しましたが、たくさん話せて楽しかったです。普段スマホを使っていますが、分かりやすく伝えるのが難しく感じました。

まつもと えりこ 松本 恵里子さん
文京学院大学人間学部2年

使ってみよう!

スマホ活用ミニ講座

スマホ触り方編

スマホには、従来の携帯電話のようなボタンはありません。画面に触るだけで反応するタッチパネルになっていて、1本または2本の指で触って操作します。画面を短く触ることを「タップ」、画面上で指を滑らせることを「スワイプ(スライド)」と呼びます。

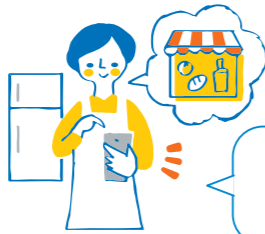
強く押ししたり、爪で触ったりしても反応しません。指の腹で、赤ちゃんの頬に触れるように優しく触りましょう。



スマホカメラ編

メモ帳の代わりに記録に使う

スマホで撮影した写真は、画面で何度でも見ることができます。画面上に2本の指を置いて、間隔を広げるように動かす(ピンチアウト)ことでルーペのように拡大して表示できます。



冷蔵庫の中身を撮影して買い物するときに見返す

記録したい思い出や記念を撮影する



インカメラを使う

カメラは、画面側(内側)にもあります。カメラ切り替えを行うことで使用できます。また、ビデオ通話時はインカメラを使います。



ビデオ電話をして顔を見て話そう

外出先での身だしなみをチェック



二次元(QR)コード編

※「QRコード」は(株)デンソーウェーブの登録商標です。

スマホのカメラをかざすだけで情報を読み取れる「QRコード※」は、さまざまなシーンで使われています。市報やチラシなどで見かけたら、QRコードを読み取って最新情報をゲットしたり、必要な画面を表示したりすることができます。

ふじみ野市ホームページを見る



QRコードを読み取ってみよう!

ふじみ野市公式LINE(スマホアプリ)の友だち追加画面



読み取るためのポイント

- ① QRコードに対してカメラを約10cm離す
- ② 画面に大きく映るようにゆっくりカメラを近づける
- ③ QRコードに対してカメラを平行にする

